

令和2年度 真和中学・高等学校 学校評価				
学校目標	「誠・信・望」の校訓のもとに「和」を重んずる豊かな人間性と、進んで「真」を追求する向学心と、社会に貢献しようという高い意欲を合わせ持つ生徒を育成する。			
具体的目標	○ 全教科・全領域で報恩感謝の心を育てる。 ○ 基礎・基本の充実、自調・自考による真(深)の学力を培う。 ○ 人への礼譲・勤労の智慧に通じる掃除の徳を体得する。 ○ 言行に品位・品格が発露する態度を養う。 ○ 健全な身体・心の育成を図る。 ○ 登下校時の四恩塔一礼を定着させる。			
	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
学校経営	①募集・広報活動の充実 ②高Ⅲ生の進路保障及び入試改革に対応するための総合的・多面的な学力の育成 ③校内組織力の向上 ④来年度タブレット導入	①ホームページや学校説明会等を利用して、学校の特色を発信する。 ②授業、課外の充実 ③定例の運営委員会等を開催し意思の疎通を図る。 ④全クラスプロジェクター配備	①B ②A ③A ④B	①熊本市中学校を中心に募集活動を9月より始めたが4月の段階より発信する必要がある。若干名ではあるが受験生増にはつながった。 ②休校期間中は学びを止めずZOOMによる授業を時間割通り実施できた。 ③起案事項も組織的な発信が出来るようになり、会全体に責任感が出てきた。 ④3学期より使用可能になり授業に活用できたが、充実を図る為、教員による研修が必要である。

1校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
総務部	①校務分掌や各学年との連携を深め迅速適正な処理を行い年度末や年度当初の企画立案をする。 ②年間行事や入学式、卒業式等の企画立案をする。 ③教具、用度品の購入管理、消耗品の管理について無駄をなくし効率的に使用する。 ④寮保護者会、育友会総会、役員会の企画立案し、保護者との連携、調整に努める。 ⑤学校要覧、真和通信、育友会だよりの編集、管理を行う。 ⑥全職員との共通理解のもとに教育計画の充実と達成に努力する。	①各種会議計画、名簿づくり各学年との連携確認を行う。 ②体育館で始業式、終業式などの速やかな進行のため、放送による生徒の誘導を行った。 ③教具、用度品の過不足の調整、生徒と協力して消耗品の調整、管理を行う。 ④春、秋二回の寮保護者会の企画、5月の育友会総会の案内、寮生の学習指導の充実をはかる。 ⑤各部との連携を行い、迅速な編集を行う。 ⑥全職員の協力のもとに、教育計画の実施を行う。	B	①年度末や年度当初計画を作成、生徒保護者名簿は例年より迅速に作成したが改善の余地あり。 ②早めに計画案を作成し、十分な準備を行う必要がある。 ③消耗品持ち出し表に使用場所、品目、個数、氏名を書かせ、消耗品の管理徹底を行った。消耗品の調達では教員が行うことは非常に難しい。消耗品調達専属の事務員が必要である。 ④今年度は新型コロナウイルスの感染流行に伴って学校行事ができないことが多かった。 ⑤学校要覧、真和通信を予定どおり発行したが完成を急ぐ必要がある。育友会たよりは新型コロナウイルス感染流行に伴う行事中止により発行を見合わせた。 ⑥寮生指導においては多数の先生に協力してもらった。
教務部	① 6年間を見通した教育プログラムの確立 ② 新学習指導要領に適合した教育課程の確立 ③ 指導要録・出席簿の管理の徹底 ④ きめ細かい学習指導の確立 ⑤ 低学力生徒の指導の充実	① シラバス作成の徹底 ② 各教科による教育課程の分析・検討の実施 ③ 毎日の生徒欠席の出入力の徹底 ④ 毎日の授業の充実、出張・年休の際の授業振替の実施徹底 ⑤ 考査後の温習課外の実施	B	① 各教科シラバス不十分。年度当初、時間をとって作成する必要あり。 ② 新教育課程編成は、引き続き検討する必要あり。 ③ 欠欠管理はほぼ達成できた。 ④ 振替ができていない。課題を与えることが多かった。 ⑤ 温習課外の代わりに、スタディサプリで課題を配信した。
生徒指導部	①いじめの早期発見・早期指導 ②SNS・スマートフォンのマナー ③挨拶の励行 ④自転車通学のマナー ⑤服装・身だしなみの徹底	①いじめアンケートの実施と各クラスでの定期的な二者面談を実施し、早期に対応する ②各クラスでの朝礼や終礼での指導や、学年集会での専門家による情報モラル授業の実施 ③正門での四恩塔一礼の徹底、気持ちの良い挨拶の実施 ④登校下校時、左側通行及び交差点での安全確認の強化 ⑤職員室等の入室時や各クラスで、該当生徒への指導を行う	B	①いじめアンケートや二者面談だけでなく日常生活にも注意をし、気になる生徒には早期に声かけなどを行った。 ②各クラスや学年で定期的な呼びかけや学年での情報教育を実施し、大きな問題はなかった。 ③正門での四恩塔一礼は登校時は良くできていたが、下校時には差があった。 ④下校時に正門から右側通行で自転車に帰る生徒が多かった。次年度の課題である。 ⑤ほとんどの生徒がよくできていたが、一部でネクタイやリボンの緩み、第一ボタン外れの生徒もあり、今後も継続した指導が必要である。
進路指導部	①中高一貫6カ年教育の中での進学・進路指導カリキュラムの構築 ②中等部・高等部の進路指導面での連携 ③高大接続改革の中で始まった思考力・判断力・表現力を求められる「共通テスト」や「新大学入試」に関する情報共有とその対策 ④「学校推薦型選抜」、多面的な評価による「総合型選抜」に個別対応可能な組織作り	①2月19日久留米大学附設中学高等学校訪問予定。まず、他校の取り組みについて学び、本校の更なる飛躍を視野に入れつつ現在の生徒達の実態に合ったカリキュラム作りを模索する。 ②進路指導部において、中学1年～高校3年まで各学年の1年間の進路指導に関する取り組みをまとめ、各学年の問題提起、そしてその改善策および今後の連携指導について検討した。 ③「Public」進路フォルダーを活用し、「新入試」に関する情報共有を行った。また、2学期からは夕課外時間帯に大学別・志望学部別の入試教科対策授業を行った。 ④志望理由書・小論文指導・面接指導について、課題内容を把握し個別対応を実施した。	B	①各教科、生徒達の理解度等、現状をしっかりと把握する。 ②生徒および保護者の学校に対する期待や要望をしっかりと捉え、学級担任・教科担当者共に毎日毎時間の指導に当たる。 ③高大接続改革半ば。2025年度大学入学共通テストの検討案では、現在の6教科30科目に情報を加え7教科21科目に変更することが提案されている。最新の情報を共有し、その変革に柔軟な対応ができるよう周到な準備が望まれる。 ④「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」募集人数は、入学定員に対して国公立大学で約3割、私立大学では5割を超えている。今後、より個別対応が必要となる。
保健体育部	①健康意識の高揚を図る ②基本的生活習慣の確立 ③安全・安心な教育環境づくり ④新型コロナウイルス感染症の感染予防対策の徹底	①年1回の保健講話や3種類の検診を実施し、保健だより「リフレッシュ」を配布 ②中学生は、能率手帳を活用した担任指導と、保健体育の授業を通じての教科担当者による指導、高校生は保険の授業や体育の授業を通じての教科担当者による指導 ③保健委員による水質検査や健康チェックカード、施設設備の安全点検、美化委員主導による生徒の美化活動 ④消毒・換気・マスクの着用の徹底と、三密回避への指導と声掛け	A	①保健講話は中止になったが、検診は密にならないように工夫をして実施することができた。「リフレッシュ」は例年より回数を増やして配布した。 ②緊急事態宣言の関係もあり、担任・教科担当者による指導は意識的にできた。 ③水質検査や健康チェックカードも実施でき、安全点検や美化委員の清掃活動も行われた。 ④担任や担当者による消毒・換気・声掛けは積極的に行われ、マスク着用の声掛けは、教師だけでなく生徒同士でも行うことができた。生徒同士の「密」には課題が残った。
募集・入試対策部	①入試説明会や各中学校の説明会での募集活動の強化 ②塾や中学校へ適時適切な情報の提供と速やかな対応 ③諸般の状況に対応した入試業務の精査及び確認の徹底 ④常に最新の情報をHPに掲載し入試説明会や入学試験について周知を図る	① 1人でも多くの生徒が本校を志望するような募集活動の研究 ② 塾や中学校への丁寧な説明と依頼に対する速やかな対応 ③ 諸般の状況を研究し、円滑な入学試験とミスのない事後業務 ④ 入試説明会や入学試験についてHPに早期掲載し周知を図り、最新の情報の掲載に努める。	B	①今年度は新型コロナウイルス感染症により、4月、6月の私立中説明会や7月の高校合同説明会、7月のオープンスクールが中止となったが、PR動画を作成して広報に努め、9月、11月はコロナ対策をとって説明会を実施することができた。各中学校での説明会でも「学びを止めない教育」をアピールした。 ②塾からの依頼にはできるだけ速やかに応じ、情報の発信に努めた。 ③各部署からの意見や協力のもと、ミスのない入試業務の改善に努めた。 ④HPを一新し、常に新しい情報の周知を図った。
事務部	①就学支援金の支給方法について、保護者の負担軽減のため授業料からの差し引き支給とする ②就学支援金や奨学のための給付金、授業料減免など経済的に生徒・保護者を支援する制度について、保護者へ周知し、申請が出たものについては県への進達など速やかな事務処理を行う ③校納金の受納事務を的確に行い滞納等がないようにする ④学校内で使用する備品や消耗品について、円滑な教育活動が行えるよう管理や調達を的確に行う ⑤校舎・グラウンドの良好な状況を保つ ⑥外部から学校に届く文書、電話、来客の受付を的確に行い外部との円滑な交流を図かる	①校納金収納のシステムを見直す。 ②就学支援金や授業料減免について、本年度からの改正点を保護者に周知し、希望者全員が申請するようする。 ③滞納者には適時に督促を行う。 ④購入希望があったものについて必要性を判断し、速やかに対処する。 ⑤校舎等の巡回や事務室に寄せられた情報をもとに速やかに対処する。 ⑥受付での間違いのないようにまた丁寧な対応を心掛ける。	A	①本年度7月から就学支援金認定額を差し引いた授業料徴収ができた。その結果、保護者の負担が軽減し授業料の滞納者が減少した。 ②保護者への文書やメールにより周知できた。 ③授業の年度末時点での滞納はない。 ④郵便料等の急な支出にもできるだけ対応した。 ⑤プールの天井改修やテニスコート跡地の整備など行った。 ⑥窓口では相手を思いやった円滑な対応に努めた。

4段階評価

A: 大いに改善あり B: だいたい改善あり
C: やや改善なし D: 全く改善なし